阿波学会紀要　第56号(pp.193-200)　2010.7

阿波市の庚申塔

民俗班（徳島民俗学会）

坂本　憲一*

要旨：阿波市４町のうち，阿波・市場両町（旧阿波郡）は庚申塔の遺存度が最も高いとされながらもその実態は明らかでなかった。４町における庚申塔の悉皆的調査を行うことにより総数552基の存在が確認できた。この中で，今回は**表１～６**の調査表に基づき，阿波市内に遺存する庚申塔の種類や数，特徴ある庚申塔事例等についてまとめてみたい。

キーワード：阿波市の町別庚申塔遺存数，最古の庚申塔（荒井門内ゆかり），六十一庚申と八庚申，梵字庚申

１．はじめに

吉野川中流域北岸に位置する阿波市は，かつて庚申信仰が大変盛んであった土地柄で，市内にはその遺産ともいえる数々の庚申塔が今に遺る。

平成19年から平成21年にかけて行った庚申塔の悉皆調査では，阿波・市場両町共に，今まで最多とされてきた神山町の200基を上回る結果となった。

今回は，先の調査資料を基に阿波市内の庚申塔の現状とその特徴を報告する。

２．庚申信仰と庚申塔

庚申信仰の起源は平安時代にさかのぼる。人間の体内には三尸という虫が宿り，庚申の夜眠っていると虫が体内から抜け出し，その人の六十日間の罪過を天帝に告げるため寿命が縮まると考えられ，長生きを願うなら，庚申の晩は身を慎んで善行をせよといういわゆる道教の三尸説に仏教・神道・修験道など複雑な信仰が結びついて出来た民間信仰である。その信仰の形としては大小の講が組まれ，六十日に一回巡ってくる干支（えと）の庚申（かのえさる）の日にそれぞれが入浴して身を清めて集まり，精進料理を食し，庚申塔を拝み経をあげて健康長寿や五穀豊穣を願った。その後，夜を明かして農事などについて話をした。この風習は江戸初期から盛んになり，仏教・神道・修験道などの習合信仰のため祭神として様々な形の庚申塔が生まれた[1･2]。

３．阿波市内の庚申塔

１）庚申塔の種類

平成19年から平成21年９月までに行った悉皆調査を基に庚申塔の所在地と塔数をまとめたのが**表１**である。さらに**表１**に基づき４町における庚申塔の分布を明らかにしたのが**図１**である。

表２は庚申塔の種類を分類して一覧表にしたものである。庚申塔には大別すると仏教系の青面金剛（しょうめんこんごう）や神道系の猿田彦（さるたびこ）を文字や像で現したものがあり，文字を刻んだものを文字塔，像を刻んだものを像塔と呼ぶ。阿波市内の文字塔には，種子（梵字）の外，「庚（幸）申」「青面金剛」「猿田彦大神」「奉供養庚申待為二世安楽」「奉供養庚申講諸願成就」など様々な文字を刻んだものが見られるが，このうち「庚申待･庚

＊　阿波市市場町

表１　阿波市庚申塔所在地別一覧

○阿波町

No.	所 在 地	塔数
1	阿波町字勝命	4
2	阿波町字勝命	1
3	阿波町字勝命	1
4	阿波町字谷島北	3
5	阿波町字谷島	9
6	阿波町字王地	1
7	阿波町字王地	3
8	阿波町字大道南	2
9	阿波町字庚申原	1
10	阿波町字大道南	1
11	阿波町字大坪	4
12	阿波町字丸山	4
13	阿波町字居屋敷	8
14	阿波町字居屋敷	2
15	阿波町字東川原	1
16	阿波町字南整理	1
17	阿波町字岩津	3
18	阿波町字乙岩津	3
19	阿波町字乙岩津	3
20	阿波町字小倉	61
21	阿波町字居屋敷	3
22	阿波町字下喜来	2
23	阿波町字下喜来	1
24	阿波町字四歩一	1
25	阿波町字北柴生	1
26	阿波町字早田	1
27	阿波町字小倉	1
28	阿波町字北岡	3
29	阿波町字山ノ神	2
30	阿波町字下喜来	1
31	阿波町字大久保	1
32	阿波町字亀底	1
33	阿波町字下喜来	1
34	阿波町字下喜来	1
35	阿波町字勝命	2
36	阿波町字勝命	1
37	阿波町字十善寺	1
38	阿波町字新開	2
39	阿波町字大次郎	1
40	阿波町字安政	1
41	阿波町字大次郎	1
42	阿波町字本町	1
43	阿波町字本町	1
44	阿波町字中長峰	1
45	阿波町字五明	1
46	阿波町字東原	2
47	阿波町字山王	1
48	阿波町字山王	1
49	阿波町字早田	1
50	阿波町字井田口	1
51	阿波町字本町	1
52	阿波町字庚申原	1
53	阿波町字大次郎	2
54	阿波町字大次郎	1
55	阿波町字稲荷	5
56	阿波町字北原	1
57	阿波町字小倉	1
58	阿波町字本町	1
59	阿波町字安政	1
60	阿波町字安政	3
61	阿波町字森沢	1
62	阿波町字久勝	1
63	阿波町字北ノ名	1
64	阿波町字本町	2
65	阿波町字東条	1
66	阿波町字西柴生	1
67	阿波町字安政	1
68	阿波町字北ノ名	3
69	阿波町字五味地	2
70	阿波町字西柴生	4
71	阿波町字中原	4
72	阿波町字中原	1
73	阿波町字北西谷	1
74	阿波町字善地	1
75	阿波町字東柴生	2
76	阿波町字梅ノ木原	1
77	阿波町字東正弘	2
78	阿波町字北正弘	8
79	阿波町字稲荷	1
80	阿波町字居屋敷	1
81	阿波町字居屋敷	1
82	阿波町字医王寺	2
83	阿波町字居屋敷	1
84	阿波町字西原	6

○阿波町

No.	所 在 地	塔数
85	阿波町字山尻	1
86	阿波町字北久保	4
87	阿波町字引地	1
88	阿波町字久原	4
89	阿波町字梅河内	1
90	阿波町字十善地	4
91	阿波町字綱懸	1
92	阿波町字川添	1
93	阿波町字西ノ岡	1
94	阿波町字西ノ岡	1
95	阿波町字東条	2
96	阿波町字五明	5
97	阿波町字西ノ岡	1
98	阿波町字糸下	1
99	阿波町字早田	2
100	阿波町字勝命北	1
101	阿波町字馬場	1
	小計	253

○市場町

No.	所 在 地	塔数
1	市場町伊月字定松	1
2	市場町八幡字町屋敷	1
3	市場町八幡字町屋敷	1
4	市場町大野島字天神	2
5	市場町香美字西野神	2
6	市場町香美字原田	1
7	市場町山野上字末広	1
8	市場町市場字上野段	1
9	市場町山野上字中山	1
10	市場町伊月字御幸ノ北	1
11	市場町伊月字宮ノ本	1
12	市場町香美字八幡本	8
13	市場町香美字八幡本	1
14	市場町香美字善入寺	1
15	市場町香美字住吉本	1
16	市場町山野上字大西	1
17	市場町香美字郷社本	1
18	市場町大野島字東島	1
19	市場町大俣字八幡	2
20	市場町大俣字久光	2
21	市場町上喜来字大門	2
22	市場町上喜来字二俣前	1
23	市場町切幡字観音	1
24	市場町切幡字吉友	1
25	市場町尾開字八坂	2
26	市場町尾開字日吉	1
27	市場町上喜来字岡	4
28	市場町犬墓字大北	1
29	市場町日開谷字野田原	1
30	市場町日開谷字野田原	1
31	市場町日開谷字岩野	1
32	市場町日開谷字岩野	2
33	市場町日開谷字遅越	1
34	市場町大影字相栗	1
35	市場町日開谷字川原芝	2
36	市場町大影字国行	1
37	市場町興崎字南分	1
38	市場町切幡字神ノ木	1
39	市場町興崎字北分	2
40	市場町香美字郷社本	3
41	市場町尾開字日吉	1
42	市場町切幡字観音	1
43	市場町伊月字西ノ宮	2
44	市場町犬墓字大月	2
45	市場町日開谷字遅越	1
46	市場町犬墓字大北	1
47	市場町香美字住吉本	1
48	市場町犬墓字平地	1
49	市場町犬墓字大北	1
50	市場町犬墓字大北	1
51	市場町日開谷字為後	1
52	市場町日開谷字川又	1
53	市場町日開谷字中ノ名	1
54	市場町日開谷字東谷奥	1
55	市場町日開谷字奥日開谷	1
56	市場町大影字平間	1
57	市場町大影字平間	1
58	市場町大影字平間	1
59	市場町大俣字原淵	1
60	市場町香美字住吉本	2
61	市場町上喜来字岡ノ下	1
62	市場町上喜来字大開	2

○市場町

No.	所 在 地	塔数
63	市場町香美字八幡本	64
64	市場町上喜来字蛭子	62
	小計	213

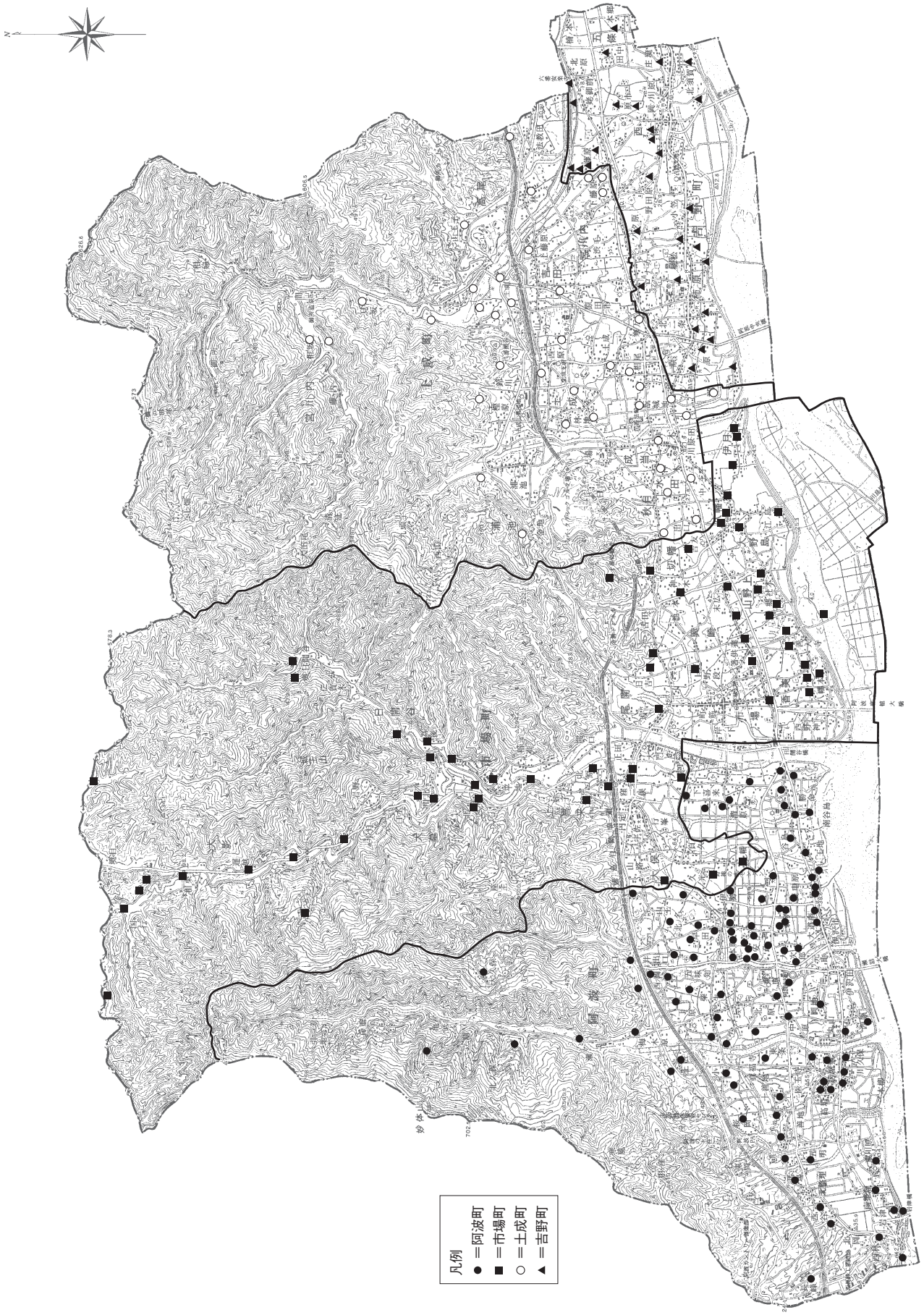
○土成町

No.	所 在 地	塔数
1	土成町土成字峰延	1
2	土成町土成字南原	1
3	土成町土成字前田	1
4	土成町宮川内字楠木	1
5	土成町吉田字一ノ坂	1
6	土成町宮川内字神田	1
7	土成町宮川内字古田	1
8	土成町宮川内字相坂	1
9	土成町宮川内字古田	1
10	土成町高尾字林坊	1
11	土成町高尾字法教田	3
12	土成町土成字山ノ本	1
13	土成町郡	1
14	土成町秋月字毘沙門	1
15	土成町高尾字山王子	8
16	土成町吉田字一ノ坂	1
17	土成町土成字前田	2
18	土成町宮川内字見坂	1
19	土成町吉田字川久保	1
20	土成町郡	1
21	土成町吉田字一本松	2
22	土成町土成字峰延	2
23	土成町宮川内字藤原	1
24	土成町土成字実安	1
25	土成町郡	1
26	土成町宮川内字落久保	1
27	土成町宮川内字中村	1
28	土成町土成字美縁	1
29	土成町土成字田中	1
30	土成町土成字田中	1
31	土成町秋月字中ノ王子	1
32	土成町成当	1
33	土成町水田字金屋	1
34	土成町水田字堂ヶ池	1
35	土成町水田字出口	1
36	土成町浦池金地	1
37	土成町浦池奥の宮	2
38	土成町宮川内字相坂	1
39	土成町宮川内字山ノ神	1
40	土成町字寒方	1
	小計	53

○吉野町

No.	所 在 地	塔数
1	吉野町西条字北須賀	1
2	吉野町柿原字高畑	1
3	吉野町柿原字二条	2
4	吉野町西条字出屋敷	2
5	吉野町西条字原市	1
6	吉野町柿原字小島	1
7	吉野町五条字本郷	2
8	吉野町西条字出屋敷	1
9	吉野町西条字東姥御前	1
10	吉野町柿原字ヒロナカ	1
11	吉野町柿原字ヒロナカ	1
12	吉野町柿原字シノ原	1
13	吉野町柿原字小笠前	1
14	吉野町西条字北須賀	1
15	吉野町柿原字ノタ原	1
16	吉野町柿原字二条	1
17	吉野町五条字立花	1
18	吉野町五条字田中	1
19	吉野町西条字藤原	1
20	吉野町柿原字西二条	1
21	吉野町西条字原市	1
22	吉野町西条字中小路	1
23	吉野町柿原字小島	1
24	吉野町西条字藤原	1
25	吉野町西条字藤原	1
26	吉野町西条字ノタ原	1
27	吉野町五条字北原	1
28	吉野町柿原字西二条	1
29	吉野町西条字藤原	1
30	吉野町柿原字ハトノ原	1
	小計	33

	合計　235ケ所	552



地形図は「阿波市全図」（阿波市発行，建設省国土地理院承認番号　平18 四複，第85号）の一部を使用

図１　阿波市の庚申塔分布図

申講・梵字庚申・他」として，一括分類したものが130基，「青面金剛」・「猿田彦」として単独分類したものが120基と85基，計335基が確認された。中でも土成町の梵字庚申５基は他の三町には見られない珍しいものである。

像塔には，猿田彦や青面金剛・鶏や猿，猿田彦を丸彫にしたものなどがあり市内全域で210基確認された。中でも青面金剛は，怒髪に忿怒相の主尊を中央に，上部には日輪と月輪，下部には邪鬼や鶏と猿が配され，左手の一つには女性をかたどったショウケラを持ち，４町の像塔ではこの青面金剛のものが最も多く見られ196基が確認された。

表２　阿波市内の庚申塔の像容分別と数

庚申塔の種類		阿波町	市場町	土成町	吉野町	合　計
文字塔 「庚申待・庚申誦・梵字庚申・他」		80 (32)	28 (6)	13 (3)	9 (3)	130 (44)
青面金剛	文字塔	71 (8)	42 (1)	6 (3)	1 (1)	120 (13)
	像　塔	79 (57)	77 (39)	23 (13)	17 (10)	196 (119)
猿田彦	文字塔	15 (0)	61 (0)	5 (0)	4 (0)	85 (0)
	像　塔	3 (1)	5 (1)	5 (2)	1 (0)	14 (4)
その他 「自然石・猿・鶏・道祖神」		5 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)
庚　申　塔　数		253 (98)	213 (47)	53 (21)	33 (14)	552 (180)

※梵字庚申は文字塔に含む　（　）内は笠付型の数

２）庚申塔の形・数と造立年

庚申塔は大別して文字塔と像塔に分類でき，さらにそれぞれが舟形・駒形・角形・剣形，数種の笠付き形や自然石を用いたものなどに分けられる。

阿波市に遺存する庚申塔を見てみると**表３**のとおりとなり，４町併せて総数は552基であるが，この内，群を抜いて多いのが阿波町で253基，市場町が213基でこれに続く。土成町は少なく53基，吉野町はさらに少なくなり33基となる。なお，この数は，既刊の報告書からは若干の増減が見られた[3・4・5・6]。

さらにこの表から，これらの造立年を見てみると，最も古いのは市場町の明暦年間のもので，寛文年間にかけてのものはすべてが文字塔であり，天和年間になって青面金剛の像塔が現れ始める。このことは，庚申塔は先ず文字塔から造立が始まり，次いで「青

表３　阿波市内の庚申塔年代別造塔数

年紀	西暦	阿波町						市場町						土成町						吉野町						合計
		文字塔奉供養	文字塔青面金剛	像塔青面金剛	文字塔猿田彦	像塔猿田彦	その他	文字塔奉供養	文字塔青面金剛	像塔青面金剛	文字塔猿田彦	像塔猿田彦	その他	文字塔奉供養	文字塔青面金剛	像塔青面金剛	文字塔猿田彦	像塔猿田彦	その他	文字塔奉供養	文字塔青面金剛	像塔青面金剛	文字塔猿田彦	像塔猿田彦	その他	
明暦	1655～							1																		1
万治	1658～	2																								2
寛文	1661～	18	1					7						6	3					9						44
延宝	1673～	9						4		1	1			2		1					1					19
天和	1681～	2		2				2		2																8
貞享	1684～	3						1																		4
元禄	1688～	19		10				3		2				1								2				37
宝永	1704～	6	1	3						1																11
正徳	1711～	6		2																						8
享保	1716～	3		9				3		4						1						1				21
元文	1736～	2		4																						6
寛保	1741～			2						2																4
延享	1744～			1						1					1	1										4
寛延	1748～			3																		1				4
宝暦	1751～			8						1						2						1				12
明和	1764～			4				2		2	1					1						1				11
安永	1772～	1		3						2				1												7
天明	1781～	1		6						3																10
寛政	1789～	1		4						3						2						2				12
享和	1801～									1		1														2
文化	1804～		1	2						1		1				1		2								8
文政	1818～	1		2												1						5				9
天保	1830～	1	2	3	1			1		2		1			2											13
弘化	1844～			1	1	1											1	1								5
嘉永	1848～			2	1						2															5
安政	1854～			1	1				1	3						1		1								8
万延	1860～			1																						1
文久	1861～			1	1					2	1															5
元治	1864～									2	1					1										4
慶応	1865～				1																					1
明治	1868～	1	8	2	3			2		12	11					6	2	1				2	1			51
大正	1912～				2																					2
昭和	1926～																									0
平成	1989～									1													1			2
年紀不明・なし		4	58	3	4	2	5	2	41	29	44	2		3		5	2		1			2	2	1	1	211
合　計		80	71	79	15	3	5	28	42	77	61	5	0	13	6	23	5	5	1	9	1	17	4	1	1	552
総合計		253						213						53						33						552

面金剛」の像塔が造り出され，江戸時代の末期から明治期にかけては猿田彦大神（無年紀だが明治期建立のもの含む）が数多く造られている。

形も当初は剣形（駒形）から始まりこの形は明治期まで散発的に続く。元禄期は華美な風潮を反映してか大型の笠付きの庚申塔が主流を占めるようになり，笠の形も豪華な長芯二重蓮華唐破風笠・宝珠破風付笠・平入形笠等の庚申塔が姿を見せ始める[7)]。

阿波市ではこの期のものが群を抜いて多く37基が確認され，この期が旧阿波郡（阿波・市場）地区の庚申信仰の全盛時代と見るべきである。

元禄以降は，要因はつかめないまでも享保年間21基，宝暦年間12基，明和と寛政年間11基，天保年間13基とが突出しており，これらの庚申塔の大半は青面金剛の像塔である。

江戸末期からは神道を鼓吹する国学者や神道派の台頭によって神道系の庚申塔，すなわち主尊が猿田彦大神となり，笠塔形の庚申塔は自然石を利用したものとなってくる。明治期に入ると国家神道における神仏分離令が影響してか，各町とも猿田彦を刻んだ文字塔が増えてくる。特に市場地区は多く無年紀ながら明治期建立のものを含めて61基の猿田彦文字塔を数える。

3）庚申塔の素材と方位

庚申塔の素材はその大半が砂岩である。対岸の吉野川市の自然石の庚申塔には緑泥片岩が多少なりとも使われているのに対し，阿波市では552基中わずか2基となっている。次に阿波市内の庚申塔の造立方位を**表4**から見てみると，造立方位は4町ともほぼ東西南北に集約できる。精密に計れば東西や南東，西北といったものもあるが，これらは道路の拡幅工事などで替えられたものであり，若干のずれがあってもこれらは立地条件がそうさせたもので，明らかに東西南北を意図して建立されたものである。最も多いのが南向きで256基，北向きは71基と最小である。「北向きの庚申さんは，気は荒いがことのほか霊験あらたか」といわれ市場町大門の明暦三年紀の文字塔はそうした俗信をもつ。

表4　阿波市の庚申塔造立方位別分類と数

	阿波町	市場町	土成町	吉野町	合　計
東	59 (15)	33 (10)	20 (10)	9 (5)	121 (40)
西	46 (12)	41 (14)	6 (2)	4 (2)	97 (30)
南	122 (58)	95 (19)	23 (8)	16 (7)	256 (92)
北	24 (13)	41 (4)	3 (1)	3 (0)	71 (18)
その他	2 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)
合　計	253 (98)	213 (47)	53 (21)	33 (14)	552 (180)

（　）内は笠付型の数

4．特徴ある庚申塔

1）県内最古で荒井門内ゆかりの庚申塔

写真1は，明暦三年紀で阿波市市場町大門にあり，県内最古の庚申塔と云われ，地元では霊験ある北向きの庚申さんとして今も参詣する人が多い。総高118cm，幅33.5cm，形状は剣型で初期の形態を示し，上部に青面金剛の種子と十個の梵字を配し，「奉造立供養庚申誦為現世安穏後生善所講衆敬白　明暦三丁酉　九月廿日」の銘文があり，下段には荒井門内他10人の寄進者名がある。

写真1　明暦3年紀の庚申塔（市場町上喜来大門）

造立者の一人に名を連ねる荒井門内は市場町日開谷にあった「日開谷口番所」の番所役人である。元は平島公方三代目義種の家臣で寛永12年（1635），義種の妻祐賀にキリシタンの嫌疑がかけられたとき，祐賀の取り調べに付き添い見事に弁明，祐賀を無実に導いた。その後蜂須賀忠英との対応から主人義種との間に確執が生まれたため，平島公方家を離れ蜂須家の臣となった人物である[8・9)]。

この庚申塔は，荒井門内ゆかりの庚申塔であるばかりか，武田家文書「貞光見聞録」に「阿淡両国ニ多キハ明暦年間以来庚申石建其地ノ人民参拝ス庚申待ト称シ輪佑組合ノ當番ノ家ニ集リテ祭リ夜ヲ明かす蜂須賀藩主ノ令達ニ依り是ヲ行ヒシト云」とある文言を裏付ける庚申塔として実に貴重である。

2）数少ない梵字庚申

図2は，土成町郡の春日神社にある庚申塔で，総高67cm，幅34cm，剣形の文字塔である。上部の左

右に日輪・月輪を，碑面中央上部には「青面金剛像の梵字を配し，その下に「オン・ア・ボ・キャ・ベイ・ロ・シャ・ノウ・マ・カ・ボ・ダラ・マニ・ハン・ドウ・マ・ジン・バラ・ハラ・バリ・タ・ヤ・ウン」と光明真言の三行書（千鳥書）を刻し，左右に「寛文第十年　霜月庚申日」と年紀銘を刻む。こうした梵字庚申は土成町に集中しており他町には見られない。

図２　土成町郡の梵字庚申塔

３）神道系最古の庚申塔

写真２は，市場町八幡にある八幡神社の境内鳥居横にあり，現在のところ神道系では県下で最も古いとされる庚申塔である。頭頂部には宝珠受台破風形の笠が付き塔身の碑面には「猿田彦大神　鈿女命」と有り，左右に「延宝五丁己歳六月十五日」の年紀銘，下部には角衛門等４人の寄進者銘がある。この庚申塔は宝珠受台破風付の笠が付くなど，一見して寛文から元禄期にかけて流行した形とわかる。

青面金剛に変わって猿田彦が多く登場するのは江戸末期である。塔の素材もこの頃になると自然石に変わる。猿田彦と鈿女命の二神を併記した文字塔は，このほか市場町山野上の王子神社横道沿い，土成町字田中の椙尾神社境内，市場町字野田原の山際等にあるが，いずれも建立は幕末から明治にかけてのものである。

写真２　延宝５年の庚申塔（市場町八幡八幡神社）

４）造形美を誇る庚申塔と素朴な庚申塔

写真３は，他に類を見ないほど美しい形をした庚申塔である。市場町切幡観音の切幡寺参道入口東にあって，三回の移転を経て当地に落ち着いた。文化年間の古地図にも記載されている庚申塔で，かつては十番霊場参道の西側にある観音谷川に架かる小橋のたもとに東面して立っており，その後近くの空き地へ移転，さらに道路の拡幅工事に伴って現在地に移された。

写真３　市場町切幡字観音の庚申塔

宝珠受台破風形の笠を頂き，塔身の碑面上部に日輪・月輪，その下に蓮華文様を中心にして上下に宝珠形二つを一段低く刻り下げ，上には青面金剛の梵字，下には緻密な一面六臂の青面金剛像を陽刻する。下部には三猿・二鶏が彫られている。側面に「寛政六甲寅年十二月吉日」の年紀銘がある。

写真４は，先の庚申塔と対照的な阿波町西原にある庚申塔である。吉野川の堤防に近い老人会の集会所横にあって今も古老の信仰が厚い。当地の庚申塔の数は全部で６基，寛文五年紀の文字塔を中央に天保七年，文化八年，無年紀の塔が三基，全くの自然石の塔一基が北面して立つ。この塔は向かって左端のもので，高さは43cm，いびつな舟形に整形された砂岩を用いて，碑面には足を投げ出した一匹の猿が両手で雌雄の鶏を献げもつ姿がいともユーモラスに表現されている。上部に「献」下部に「申年女」とあって干支と性別のみで個人名はない。

こうしたケースは素朴な小絵馬の奉納時にもよく見られるもので，秘めやかな願掛けは，他人には知られたくないもの，さりとて匿名にしてしまえば神仏に自分の願いが通じないという心理が働い

写真４　阿波町西原の庚申塔

てのことである。図柄の構成といい，銘文の形といい，実に素朴な庚申塔である。

5）六十一庚申と八庚申

阿波・市場両町の庚申塔を特徴づけるものに六十一庚申がある。いずれも六十数基の庚申塔を一堂に並立させたもので，阿波町に一ヶ所，市場町に二ヶ所ある。**表5**は，それらの数と庚申塔の種類を示したものである。庚申塔の数を61とするのは，庚申の日が六十一日目に回って来ることに由来する。

阿波町十善地の六十一庚申は，通称「小倉の六十一庚申」と呼ばれ，全部で61基，うち，自然石を用いた文字塔の青面金剛が58基，像塔の青面金剛が2基，奉供養の文字塔が1基で計61基となる。うち，青面金剛の像塔二基と奉供養の文字塔に，それぞれ元禄七年，元文元年，寛文六年の年紀銘がある。61基の庚申塔が一堂に居並ぶ様は圧巻で，境内にある説明板には，明治十八年頃，数人の世話人が付近に点在した庚申塔を集め，さらに61基に増設，願成寺の住職に入魂してもらった云々とある。

市場町上喜来にある実相寺の六十一庚申は，実数では全部で62基あり，青面金剛等の文字塔が6基，同じく像塔が13基，猿田彦の文字塔が41基，像塔が2基，計62基となっている。これらの塔は，実相寺の表参道から本堂の裏山にかけて順次参拝できる形で造立されている。

写真5は，市場町香美字八幡本の旧虚空蔵庵にある六十一庚申である。境内を取り囲むように実数64基の庚申塔が配置されている。内訳は青面金剛等の文字等が40基，像塔24基の計64基である。かつてこの庵では，毎年1月13日に虚空蔵市が盛大に開かれたため，多くの参拝者が六十一庚申を参ったが，仏事が市場町山野上の大野寺に移されたため，今は参拝者もなく庚申塔がひっそりと佇む形となっている。六十一庚申の例は県内の他町村には見られない[10]。

阿波・市場・土成町の3町には**表6**に示した八庚申なるものが存在する。阿波町北正広の八庚申と同町谷島の八庚申，市場町香美八幡本の八庚申，土成町高尾山王子の八庚申である。「八」という数は偶然なのか意図的なのか，取材では当を得た回答を得られなかった。ただ，谷島の八庚申は，地元の人たちは昔から「谷島の八庚申」と呼んでいるといい，今も毎年，庚申講**写真6**が盛大に営まれているが，庚申塔の実数はなぜか9基である。

阿波町北正広の八庚申は，すべてが庚申待の文字塔で同形をしている。年代別に見ると一基だけが元禄十一年の年紀が入り，後の7基はすべてが明治十

表5　「六十一庚申」の庚申塔の像容別分類と数

庚申塔の種類		阿波町十善地の六十一庚申	市場町香美八幡本の六十一庚申（旧虚空蔵庵）	市場町上喜来の六十一庚申（実相寺）
文字塔「庚申待」		1（0）＊	1（0）	2（0）＊
青面金剛	文字塔	58（0）	39（0）	4（0）▲
	像　塔	2（2）☆	24（7）☆	13（2）☆
猿田彦	文字塔	0	0	41（0）△
	像　塔	0	0	2（0）
庚申塔数		61（2）	64（7）	62（2）
造立年のあるもの		3（2）	6（6）	13（2）
銘文にある造立年と塔数		寛文6（1666）1＊ 元禄7（1694）1☆ 元文1（1736）1☆	明和8（1771）1☆ 明治39（1906）5☆	延宝8（1680）1☆ 天和3（1683）1＊ 天和7（1687）1＊ 明治35（1902）10 （6△　4▲）

（　）内は笠付型の数

写真5　市場町香美字八幡本，旧虚空蔵庵の六十一庚申

写真6　阿波町谷島の八庚申における庚申講

表６　「八庚申」の庚申塔の像容別分類と数

庚申塔の種類		阿波町谷島の八庚申	阿波町北正広の八庚申	市場町香美八幡本の八庚申	土成町高尾山王子の八庚申
文字塔	供養講	１（１）＊			
	庚申誦	１（１）＊			
	庚申供養 庚　庚申 待・庚申 誦	４（４）○●☆□	８（８）●○	１　＊	２　☆
青面金剛	文字塔				２　△
	像　塔	３（３）◎★■		７（７）○●★☆□	２（１）●＊
猿田彦	文字塔				
	像　塔				
梵　字	文字塔				２　▲
庚　申　塔　数		９（９）	８（８）	８（７）	８（７）
造立年のあるもの		９	８	８	４
銘文にある造立年と塔数		寛文12（1672）２＊ 寛文11（1671）１○ 元和元（1615）１◎ 貞享３（1686）１● 元禄３（1690）１☆ 元禄15（1702）１★ 元禄９（1696）１□ 享保９（1724）１■	元禄11（1698）１● 明治12（1871）７○	元禄11（1698）＊ 文久２（1862）２○ 寛文７（1667）● 享保７（1622）☆ 享保15（1730）★ 寛保２（1742）２□	寛文５（1665）▲ 明和４（1767）＊ 天保２（1831）△ 明治２（1869）○ 年号無し　４☆

※土成町高尾山王子の八庚申には，特徴的な梵字庚申が見られる。　（　）内は笠付型の数

二年紀となっている。このことから元禄期の庚申塔がすでにあって，あとの７基は「八」という数にこだわり追加造立したことが伺える。

５．おわりに

阿波市内の庚申塔を２カ年にわたり追いかけた。その結果552基の庚申塔の所在が確認できた。うち，阿波・市場の２町が異常に多いという結果を得た。その理由を，明暦三年の徳島藩からの令達に即応して庚申信仰が盛んになったとしてしまえばそれまでだが，他の要因も考えられるのではないか。

当地は，江戸時代「月夜に雲雀がやけどする」とまで云われた典型的な干ばつ地帯で水争いが絶えなかった。その反面絶えず讃岐山脈の小谷から流れ出す鉄砲水や土石流に悩まされてきた。農民たちは水害から畑を守るため競って周辺に高い土手を築いた。藩はそれらの土手の高さを均一化するため高さの基準を定めた「印石」を建てた。この地で庚申信仰が盛んになった理由には，水害・干ばつに悩む農民達の日々の生活が関係しているように思えてならない。

「阿波は蜂須賀以来重要な民政の一部として，庚申待と称して，隣保組合で講をもたせ…藩政に隙を作らないようにした。…」[11]とあり，藩としては，特に被害に悩む阿波郡一帯の農民たちの動向を把握する必要から，その対策として庚申信仰を広めるようとしたのではあるまいか。ここで登場するのが前述の日開谷口番所の支配役人荒井門内である。荒井門内は，県内最古とされる明暦三年紀の大門の庚申塔，加えて同所の寛文四年紀の庚申塔計二基にその名を留めており，番所役人ということからも，庚申塔造立の推進者と考えることはできないだろうか。今後このあたりのことを課題としてさらに調査究明してみたい。

註

１）飯田道夫（1992）：庚申信仰27頁
２）窪　徳忠（1956）：庚申信仰99頁・117頁
３）吉野町（1978）：吉野町史837頁
４）土成町教育委員会（1978）：土成町の石仏19頁・21頁
５）阿波町（1979）：阿波町史1219頁
６）徳島県郷土文化会館（2009）：日開谷川流域の民俗105頁
７）国遠一夫（1971）：讃岐阿波庚申塔９頁・22頁
８）市場町（1996）：市場町史413頁・1,374頁
９）徳島県立文書館：平島家荒井家文書-吉利支丹祐賀一巻217頁
10）註６）に同じ
11）註７）に同じ